

「痛みの少ない血尿検査」：膀胱尿道内視鏡検査

◎「肉眼的血尿」は赤信号！

ピンク色や赤ワインのような尿、コーヒーやコーラみたいな黒っぽい尿、血の塊が混じる尿など、見てははっきりと血液が混じっていると確認できる状態を「肉眼的血尿」と言います。特に痛くない「肉眼的血尿」は「**尿路のがん**」の特徴的な症状で、腎臓や膀胱を精密検査する必要があります。

「血尿が出たけど、すぐに良くなったから大丈夫」という自己判断は大きな間違いです！がんの初期には、血尿は出たり出なかったりします。ずっと血尿が出るような頃には、取り返しのつかない状態になっていることも少なくありません。「1回だけの血尿」でも泌尿器科専門医へ受診をお勧めします。

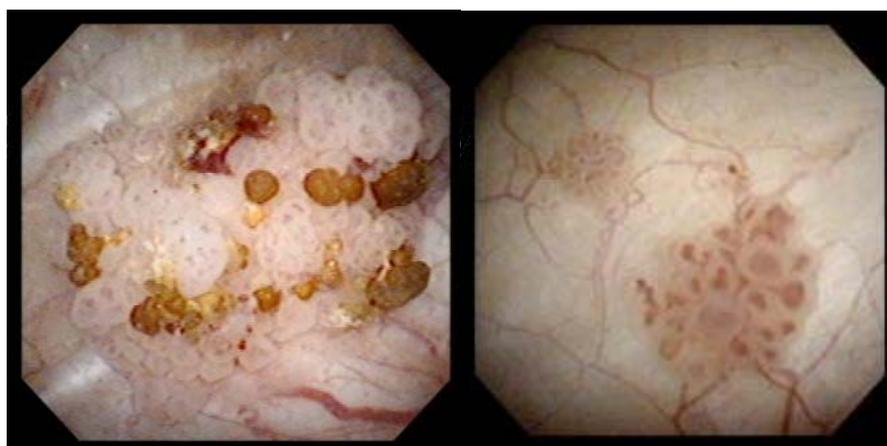
◎膀胱尿道内視鏡システムを一新しました！

痛くない「肉眼的血尿」が出た場合は、**膀胱がん**を疑って内視鏡検査が必要です。従来は太くて硬い検査機器を尿道に入れるため、かなりの苦痛を伴いました。最近では細くて柔らかい機器が開発されたため、検査後に「思ったより楽だった」と言っただけのようになりました。当院では、平成23年4月に**内視鏡システムを一新**して最新機器を導入しています。より痛みが少なく鮮明な画像で正確な診断が可能です。

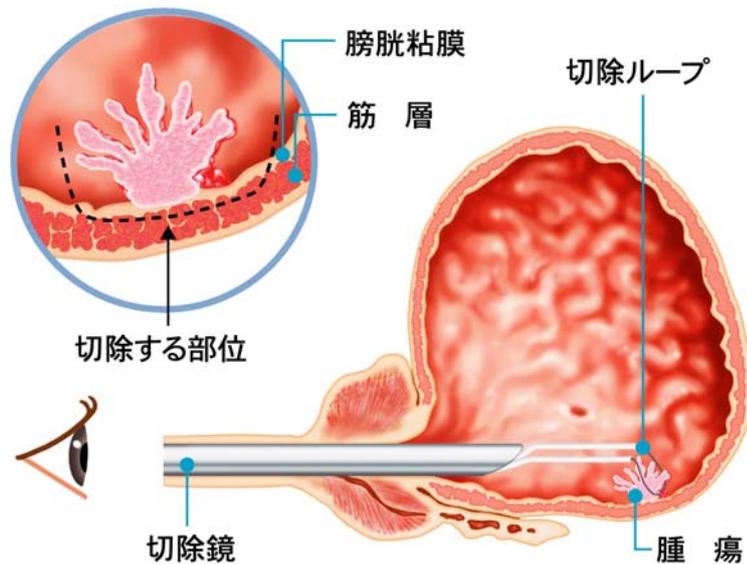


◎内視鏡検査でわかる代表的な病気

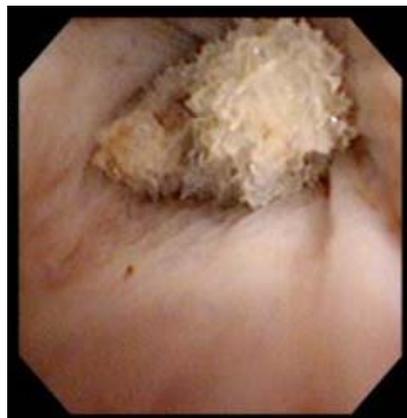
- ① 膀胱がん：カエルの卵のような形態ですが、医学用語では「乳頭状腫瘍」と表現します。写真のような早期発見であれば、短期入院の内視鏡手術（TUR-Bt）で治療が可能です。



経尿道的切除術 (TUR-Bt)

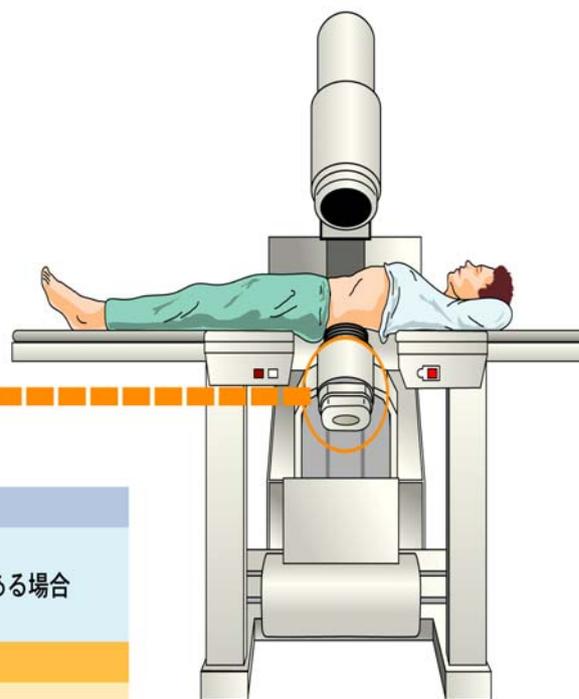
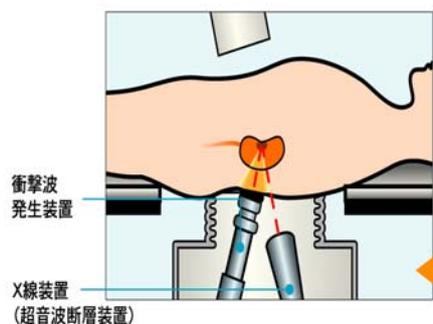


- ② 結石：写真は結石が尿道にはまり込んだところです。痛みが大変強かったので、すぐに外来手術で除去しました。腎臓や尿管の大きな結石では体外衝撃波結石破碎術が必要となる場合があります。当院では患者さんの負担を減らすため、入院なしの日帰り手術で行っています。



体外衝撃波破碎術(ESWL)

●体外衝撃波結石破碎装置



体外衝撃波破碎術の適応禁忌

- ・妊婦
- ・コントロール不十分な出血傾向のある場合
- ・腎動脈瘤

体外衝撃波破碎術の適応要注意

- ・尿路に狭窄がある場合
- ・極度の肥満、小児(焦点合わせが困難な場合)

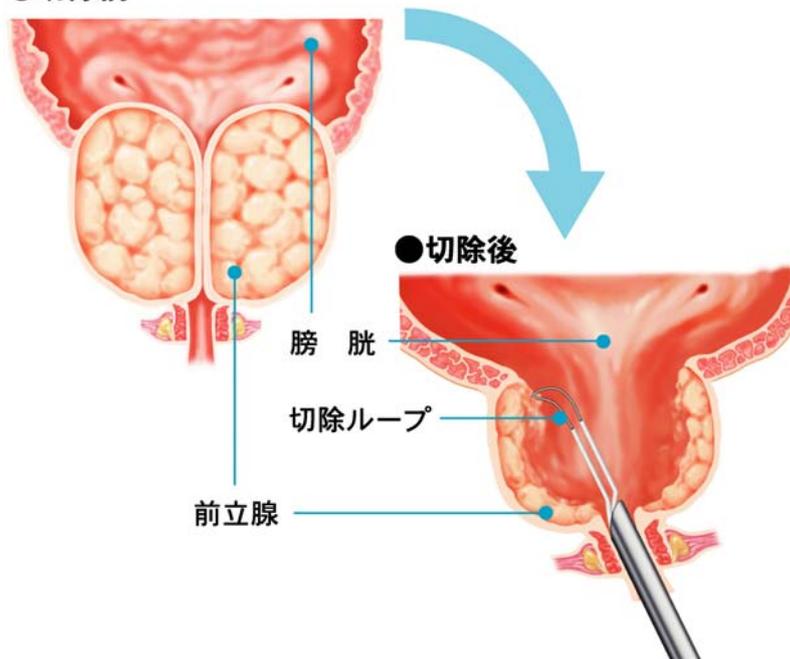
尿路結石症診療ガイドライン(2002)より

- ③ 前立腺肥大症：左（①）の写真は肥大した前立腺が膀胱へ突出しているところ、右（②）は肥大症で狭くなってしまった尿道です。短期入院の内視鏡手術(TUR-P)で、スッキリとおしっこが出るようになりますよ。



経尿道的前立腺切除術 (TUR-P)

●切除前



出典) 説明図は「Doctors and Patients 泌尿器科系の疾患 2009」監修：京都大学名誉教授 吉田修先生から引用させていただきました。